

プレアクト情報

■アクトトレーラー

楽しい夢を見ました。

小さなお店と、顔なじみのお客さま。

そう高価ではないコーヒーの匂いと、

洗いたてのテーブルクロスの白。

そんな平凡な、幸せな夢。

からり、とドアのベルが鳴ります。

お客様が、いらしたみたいです。

大きな音がして……私の脳が、脳がかきまぜられて、あな

たのことも、わすれそうになります。

それは、水底と暗い街の中で見た、幸せな夢、でした。

トーキョーN◎VA The Detonation

『顔なし女のこもりうた』

運命の扉が開かれて、彼女の夢は泡と消える。

■シナリオ情報

▼推奨プレイ環境

Skype、オフを推奨。

テキストであれば、プレイヤー3人を推奨。

▼プレイ時間

3～5時間（テキストの場合、9～15時間）

▼プレイヤー人数

3～4人

▼シナリオ傾向

ストリート、犯罪組織、シリアス

●レギュレーション

本誌に収録されているデータでの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

使用経験点：30～200点を想定

最大達成値：単独で20台後半、支援込みで30前半

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：ルミナ・フロス

推奨スート：感情

ルミナは、最近君が通いつめている喫茶店に勤める女性だ。凧の様な微笑みが特徴的な彼女の愛嬌のおかげで、合成品のコーヒーの味も少し良く思えたりするものだ。

そんなある日、ルミナは君に相談をもちかけてきた。最近、尾行されているような気配に悩まされており、数日の間、帰宅に同伴してくれないかというのだ。専門外の依頼だが、彼女の淹れる美味しいコーヒーのためなら安いものだ。

【PS：ルミナ・フロスを守る】

推奨スタイル：カブト

SCENARIO HANDOUT

コネ：“フェイスレス” ミュリエル

推奨スート：理性

かつて君が、警護の依頼の際に撃退した暗殺者、“フェイスレス” ミュリエル。変装の達人で、どこにでも忍び込んで攻撃を仕掛けてくる恐ろしい敵だった。

そして今、君の元にかかってきた謎のコール。ミュリエルを名乗る女からの、警護の依頼。しかし、指定の場所に向かえども、そこに彼女の姿はなかった。差し迫った様子の彼女の声が、妙に耳に残った。

【PS：依頼人を捜しだし、真意を聞く】

推奨スタイル：レッガー

SCENARIO HANDOUT

コネ：ジム・フロス

推奨スート：外界

ろくでなしのジム・フロスが死んだ。河渡の金融会社から、借金を繰り返していた男。定職に就くわけでもなくフラフラしていた落ちこぼれだ。

奴が死ぬのは、君にとって一向に構わないことだが、残った多額の借金だけはどうかして取り戻さなければならない。たとえ相手が墨田川に沈もうと、貸した以上のものをむしり取るのがレッガーというものだ。

【PS：ジムの借金分を回収する】

推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：^{アルゴス}“百眼神” アリー塚原

推奨スート：理性

君が巡回中に見つけた、木更津湖に浮かんでいた謎の遺体。鑑識班の検分に立ち会うも、遺体は損傷があまりに激しく、個人の特定すら不可能だという。凶悪犯をなんのこともなくさばく君でも、その様相は眉をひそめざるを得ないものだった。

君の嗅覚が、これはただ事では無いと告げる。物言わぬ被害者のために、君は調査に乗り出した。

【PS：死体の身元を調査する】

●推奨スタイル

- ①『フェイト』：私立探偵
- ②『カブト』：ボディガード
- ③『レッガー』：河渡連合の任侠
- ④『イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課

●プレイヤーが3人の場合

『レッガー』あるいは『イヌ』のいずれかを抜くこと。どちらを抜くかは、プレイヤーの希望を考慮して選ぶと良い。

●事前知識について

このシナリオは単体でストーリーとして完結しているが、もし『Nothing hurts like the truth』（『TND』 付属シナリオ1）を遊んでいる場合、ゲスト達の過去設定をより深く楽しめるかもしれない。（遊んでいなくても楽しむ上での支障にはならない）

●必要な神業

《^{トゥルース}真実》には使用想定シーンが存在する。

キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、最低1個の防御系神業が必要だ。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：ストリート〉〈社会：警察〉などである。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通りに取得する。

『フェイト』→『カブト』→『レッガー』→『イヌ』→『フェイト』

R L 用テキスト

◎ ◎ ◎

T X T 4 R U L E R

■ストーリー

カーライル・シンジケートは、同じく北米系の組織であるヒュプノスと結託して、N◎VAにおける兵力増強プロジェクトを進めていた。それは、“ムネモシュネ”というサイコ・アプリケーションを用いて人間の人格・経験などを抽出し、他者へと転写する事で、歴戦の兵士を手軽に量産するという恐ろしいものであった。

しかし、その技術には欠陥があった。人格を抽出された人間が、精神崩壊を起こして死んでしまうのだ。更に、抽出された人格データは欠損が多く、転写されたものもまた、記憶障害を起こしてしまう。

『フェイト』の行きつけの喫茶店で働くルミナ・フロスと名乗る女性は、その人格転写実験の被検体だ。本物のルミナは実験により死亡しており、その正体は、彼女から抽出された不完全な人格を転写されたカーライルの殺し屋、“フェイスレス” ミュリエルである。カーライルの元から逃げ出した彼女は記憶の多くを失っていたが、それ故に、流れ着いた場所で幸せに暮らしていた。

しかし、貴重な実験のサンプルを失うまいと、カーライルの魔の手が彼女に忍び寄る。見知らぬ追手の恐怖に怯えるルミナに助けを求められた『フェイト』、ミュリエルが

カーライルから逃げ出す時に頼ろうとした『カブト』、生前のルミナ（本物）の血縁者と関わりがあった『レッガー』、木更津湖に浮かんだ謎の水死体の身元を洗う『イヌ』。彼らがルミナの真実に辿り着き、カーライルの企みを阻止する事が出来れば、シナリオは終了となる。

■クライマックスへの条件

サイコ・アプリケーション「ムネモシュネ」に関しての情報を入手し、実験施設のアドレスへ向かうとクライマックス。

ゲスト情報

GUEST DATA

■ ルミナ・フロス

エキストラ（マネキン◎）

▼解説

「私、このお店のコーヒーの香り、好きなんです」

本作のヒロイン。喫茶店でバイトをする、凧の様なおだやかな微笑みが特徴的な女性。

本来のルミナという女性は、父親（ジム）の借金のかたに娼婦をさせられていた。その後、カーライル・シンジケートによる人格転写実験により死亡。『イヌ』のオープニングで上がった死体は彼女のものである。

『フェイト』と出会うルミナは、彼女から抽出された不完全な記憶・人格を転写された“フェイスレス” ミュリエルだ。

では、今のルミナはただの偽物なのか？ その答えは、物語の終わりにプレイヤーたちに委ねられることになる。



オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●カブト：消えた女

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『カブト』が、過去の敵である“フェイスレス”ミュリエルから、護衛の依頼を受けるシーン。彼女との合流場所に向かっても、そこに彼女の姿はない。

◆描写1

のしかかるような曇天の下、君が仕事用に使用しているポケットロンが鳴った。

「『カブト』ね……？ 私はミュリエル」

“フェイスレス”ミュリエル。変装の達人で、凄腕の暗殺者^{カゲ}。かつての護衛任務の際、君がかなり苦戦を強いられた相手だ。そんな相手から、何故コールがかかったのだろうか？

▼セリフ：ミュリエル

「お願いがあるの、護衛の依頼。すぐに来てほしい」

「畏なんかじゃないわ……。追われてる。助けてほしいの」

「依頼料なら、既に振り込んだわ。プラチナム。確認して」

「浅草橋で待ってる。お願い、早く来て」

◆描写2

君は合流場所に向かった。しかし、浅草橋に彼女の姿は無かった。待てど暮らせど、依頼人も襲撃者も姿を見せず、そのまま雨が降り始めてしまった。

悪戯だったのだろうと、君がその場を立ち去ろうとした瞬間、再びポケットロンに着信があった。

▼セリフ：ミュリエル

「タス……ケテ……キエテ……シマウ(*)」

◆結果

地面に倒れ込むような音を残して、ポケットロンからの通信は途絶えた。(*)『カブト』が彼女を探し始めたらシーン終了。振り込まれた1プラチナムは、もちろん報酬点として使用してよい。

●フェイト：喫茶店の娘

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『フェイト』のオープニング。ヒロインであるルミナとの出会いを描く過去回想シーンの後、時を戻し、彼女から帰宅同伴の依頼を受ける。

◆描写1

のしかかるような曇天の日。君はふと、街の片隅にある、寂れた喫茶店に立ち寄った。そこで出会った店員が、ルミナ・フロスだ。凧の様なおだやかな笑みが印象的な女性だった。コーヒの質は上等とは言い難かったが、彼女の笑みのお陰で、少しはマシに思えたものだ。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「いらっしゃいませ。お一人様ですか？」

(注文を聞きながら)「初めてご来店される方ですね？ 小さなお店ですから、お客様のお顔はすぐに覚えちゃうんです」

(注文にクッキーをつけて出す)「サービスです。……あ、もしかして、甘いものお嫌いでしたか？」

◆描写2

あれから、気づけばその喫茶店にしばしば通うようになっていた。ルミナとも顔なじみになってきた頃。

その日は雨が降っていた。ルミナの様子が、どこかいつもと違った。

▼セリフ：ルミナ・フロス

(窓の外を不安そうに見ている)「……あ、いらっしゃいませ」(しばらく会話した後、意を決したように)「あの、『フェイト』さん、折り入ってお願いがあるのですが」

「最近、誰かに尾行されているような気がして……。気のせいかもしれないんですけど、何だか怖くて……」

「その……。ご迷惑だとは思うんですけど、帰宅の時、途中まで送っていただけないでしょうか(*)」

「一週間ほどで構いません！ お礼はします。少ないですが……(1シルバーを差し出す)」

◆結果

ルミナからの依頼を受けたらシーン終了。

「キエテ……シマウ」

ミュリエルはこの時、ムネモシユネにより、記憶や意識を上書きされている最中だ。消えてしまうのは、「自分の意識」である。

ポケットロンからの通信

以降、このポケットロンへ連絡を取る事はできない。ポケットロンの位置を割り出そうとした場合、壊れて使い物にならなくなったそれが墨田川の底で発見される。(倒れ込んだ際に落したのだ)

『フェイト』への依頼

ルミナはこの時点では、あくまでもストーカーかもしれない相手に怯える女性である。『フェイト』に依頼したのは、彼女が『フェイト』のことを憎からず思っているからだ。

●レッガー：愚者の死

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

河渡から金を借りていたジム・フロスの死を描く。多額の借金を残して死んだジムから、何としてでも金を回収するため、『レッガー』が動き始めるシーン。

◆描写

ろくでなしのジム・フロスが死んだ。河渡系列のヤミ金融で借金を繰り返していた男だ。この街には、掃いて捨てるほど居る落ちこぼれ。

雨が降りしきる路地裏に、ジムの死体が転がっていた。酒とドラッグでボロボロの体は、バラして売っても二束三文にもなりそうにない。

死骸を見下ろす君の脳裏に、ジムとの最後の会話が思い起される。

▼セリフ：ジム・フロス（回想）

（ドラッグに浸かった虚ろな目で）「今日も取り立てに来たのかよ、毎度毎度ご苦労な事ですなァ……」
「返せって言われてもなァ……金無いから借りたわけだしなァ」（殴っても罵っても、ヘラヘラと笑う）
「悪かったって。実は金のあてがあんだよォ……近々デカイ金が入るんだ（*）、そしたら、返すって。嘘じゃネえよ」（クツクツと笑いながら）

▼セリフ：『レッガー』の部下（現在）

「どうしやすか。何とかして貸した分を取り戻すメドをたてねえと、音羽の姐さんにどやされちまいますぜ」

◆結末

『レッガー』が仕事に向かう意思を見せたらシーンエンド。

●イヌ：ミスティック・レイク

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

木更津湖に浮かんだ謎の遺体について、『イヌ』が捜査を開始するシーン。

◆描写

雨が降りしきる暗い空の下、君が巡回中に見つけた、木更津湖に浮かんだ謎の死体。

機動鑑識班の検死に立ち会った君だったが、その遺体は元々人間だったとは思えないような、筆舌に尽くしがたい状態だった。

▼セリフ：アリー塚原

「……ダメね。外見の特徴はおろか、DNAサンプルも全然取れない。遺体から身元を割るのは不可能よ。ここまで損傷の激しいものは久しぶりに見るわ」
「顔も何もかも分からなくなるまで水の中にいたなんて……惨いことね」
「『イヌ』、これは骨の折れるヤマになりそうよ。それでも、やる？」
「そう……貴方らしいわね。私も、遺体の解析を続けてみるわ」

◆結末

捜査費用として3シルバーを渡してシーン終了。

「近々デカイ金が入るんだ」

娘であるルミナを、カーライルに売る事で莫大な金を手に入れる予定だった。この時、ジムはルミナがデガーモの専属娼婦になると聞いていたが、実際は実験体として使用され、死亡してしまう。

金を得たはずのジムが路上で死んでいた理由はなんなのか。それは、RLの想像にお任せしよう。

オープニングの時間軸

フェイトのオープニングが、時系列的に他から少し開いて、一番最後である。他の順序は未確定だが、ほぼ同時期と思って良いだろう。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

■クライマックスへの条件

サイコ・アプリケーション「ムネモシュネ」に関しての情報
を入手し、実験施設のアドレスへ向かうとクライマックス。

●フェイト：悪魔の待ち伏せ

条件：リサーチ最初のシーン

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉 10

◆解説

『フェイト』がルミナの帰宅に同伴するシーン。

夜道を彼女の自宅まで送る途中、何者かの気配を感じる。
尾行者は「トループ:カーライル銃手」である。彼らの〈隠密〉
判定に〈知覚〉で勝利すると、【ルミナを尾行する者】の情
報を入手できる。

◆描写

日が暮れる時刻。約束通り喫茶店にルミナを迎えにきた
君は、彼女からのサービスだというコーヒーを飲みながら、
彼女の支度を待っていた。ルミナは制服を着替え、普段着
で出てくる。顔には申し訳なさそうな微笑みを浮かべてい
た。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「お待たせしてしまっていてごめんなさい。店長さんが、今日は
片づけはいいからもう帰るなさいって」
「それじゃ、よろしくお願いしますね」

◆描写2

街外れにあるという自宅への道は、暗い。確かに、女性
が一人で帰るには少々危険な場所だ。ふと、君は何者かの
視線を感じた。

▼セリフ：尾行者

「チ……勘のいい奴だ」※光学迷彩を起動して闇に消える。
退場。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「やっぱり、誰かついて来てたんですか……？」
「カーライル……？ 何ですか、それ」
「マフィア……！ どうして、そんな人たちが私を……！？」

◆結果

怯えるルミナの表情を映してシーンエンド。なお、ここで
尾行者の情報を入手できなくても、情報項目としては何度で
もリサーチ判定が可能だ。

●カブト：見知らぬ顔

条件：『カブト』がルミナに会いに行った

登場：〈社会：ストリートほか〉〈コネ：ルミナ〉 10

◆解説

『カブト』がルミナに会うシーン(*)。ミュリエルとの合流
場所付近で目撃されたという彼女だが、彼女はその事を覚え
ておらず、ミュリエルという人間のことも、『カブト』の事
も知らないという。〈知覚〉か〈心理〉で12の判定に成功す
れば、彼女が嘘をついてなさそうだという事が分かる。(*)。

◆描写

君は、ミュリエルとの合流場所で目撃されたという女性
に会いに来ていた。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「えっと……どちら様、ですか？」
(ミュリエルの事を聞いた)「……？ すいません、存じませ
んね……」
「貴方とも……多分、初対面だと思います。でも、私最近、
ちょっと記憶がおぼろげで。どこかでお会いした事が有った
のなら、ごめんなさい」
「その、ミュリエルって方、どんな人なんですか？」
「そうですか……。早く見つかるといいですね」

◆結末

ルミナとの会話がひと段落ついたらシーン終了。

カブトがルミナに会う

『カブト』への依頼の際に電話から聞こえたミュリエルの声と、ルミナ
の声は明らかに違うという事を伝えると良い。もちろん、変装用義体の
変声器によるものだが。

尾行者のせいでナーバスになっているルミナは最初、『カブト』に対し
ても警戒の色を見せる。『フェイト』などが安心させると、警戒の色を解
いて質問に答えてくれるようになる。

嘘をついていなさそう

〈オシログラフ〉などであれば、確実に嘘はついていないと分かる。
他の特技などで彼女から何かを聞き出そうとされた場合であるが、以
下の指針を参考に受け答えを行ってほしい。
・ルミナは自分の自我が誰かのコピーなどという自覚はしていない。
・おぼろげながら過去の記憶はあるものの、詳しく思い出そうとすると
詰まってしまう。例えば、アサクサに住んでいた事は思い出せるが、具
体的な位置は思い出せない、など。
・事故か何かにあって記憶喪失になったのだらうと思っており、あまり
不便を感じていないのでそのうち治るのだらうと思っている。

●フェイト：仄暗い街の底で

条件：[歓楽街のアドレス] に向かった

登場：〈社会：N◎V A、ストリート〉 10

◆解説

過去にルミナが目撃されたという歓楽街に来るシーン。聞きこみ（〈交渉〉や〈社会：ストリート〉、〈売買〉などで目標値 12）に成功すると、過去にルミナが働いていたという店の人間（娼婦）から、話を聞く事が出来る。

◆描写

すえた臭いの染みついた歓楽街。ネオンのけばけかしい光が、夜の闇に妖しく踊る。

ルミナには、あまりに似つかわしくない場所。本当に彼女は、こんな場所にいたのだろうか？

▼セリフ：気だるげなマネキン（エキストラ）

「ルミナ？ 知ってるよ。以前うちで働いてた」
「変な子だったよ。夢見がちっていうか、バカっていうか。親父の借金のカタに売られてんだっけ？ そんなのマジで返そうとするバカ、いないよ」
「そのくせ、お父さんは私のこと大切に思ってるの、とか言ってるさ。ホント、バカみたい」
「ある日、その親父が急に店に来て、ルミナ連れて出てってさ、それっきり。あの子帰ってこなかったよ。今頃、どうなってんだか」
（ホロなどを見せた）「すごい似てるね……。でもこれ多分、別人。あの子、こんな朗らかな笑い方、しないもん（*）」

◆結果

謎を残したままシーンを終えること。

●レッガー&イヌ：ハイエナたちの沈黙

条件：[アジトのアドレス] に向かった

登場：〈社会：ストリート〉 13

◆解説

女性の遺体が運び込まれたという、カーライルのアジトに乗り込むシーン。トループとの戦闘になる。

戦闘終了後、彼らを尋問できるが、デガーモ・ベインティの名前が出そうになると「沈黙の掟」(『WOR』p.13) が発動し、彼らは死亡する。

◆描写

レッドエリアの廃ビルの中に、そのアジトはあった。無骨な鉄の扉を開けると、合成煙草の煙の向こうから、北米系らしき男たちが睨みつけてくる。

▼セリフ：北米訛りのレッガー

「何だお前ら。ここは私有地だ、さっさと出て行け」
「どうやら怪我したらしいな」

◆カット進行

敵は以下の通り。

- ・カーライル戦闘員トループ : A R 3 (15 人)
- ・カーライル銃手トループ : A R 2 (15 人)

キャストは 1 エンゲージ。戦闘員トループはそこから近距離、銃手トループは中距離の位置にいる。敵の残り人数が 10 人以下になれば戦闘終了。

▼セリフ：敵の残党

「^{Fuck}クソ！！ ……なんだってんだ！」
（運び込まれた死体の身元について聞かれた）「知るか！ 俺らは言われた通り“処理（*）”しただけだ！」
（処理を指示した者について聞かれた）「い……言えるか。ヒッ……！ 言う、言います！！ 指示したのはデガ……ぐ、グワッ！！」※「沈黙の掟」の効果で死亡

◆結末

ここでは、これ以上の情報は見つけ出せそうもない。キャストがアジトを後にしたらシーン終了。

こんな笑い方しない

生前のルミナは夢見がちだったとはいえ、悲惨と言える人生を送ってきたのだ。朗らかな笑顔などそうそうできないだろう。

実際にはどんな笑い方だったのか。それは RL や PL 諸氏の想像にお任せする。

処理

『イヌ』のオープニングで見つかった死体の状況が示す通り、その方法は気分を害するような方法だ。そのため、本シナリオ中では詳しくは描写しない。

もし、詳細が知りたい奇特新 RL がいるならば、『TND』54p の 27 行目からを参照のこと。

●RLシーン：夢の終わり

条件：【ミュリエルの追加情報】の情報を入手した

登場：キャストの登場不可

◆解説

ルミナ（≡ミュリエル）が、デガーモによってムネモシュネを切られ、記憶を取り戻すシーン。デガーモが使用したライトハンド《腹心》の効果により、彼女の心はデガーモに縛られる。

◆描写

降りしきる雨の中、閑古鳥の鳴く喫茶店で、ルミナは一人、窓の外を眺めていた。ふと入口の扉が開く。仕立てのいい白いスーツを着た壮年の男……デガーモ・ベインティが、数人の取り巻きと共に入ってきた。

「誰、ですか……」

怯えるルミナを見下ろしながら、デガーモはポケットから何かのスイッチ(*)を取り出し、ボタンを押した。

「何……？ い、いや、いやああああああ！！」

急に頭を抱えてうずくまるルミナ。悶え苦しむ彼女の顔がドロリと溶け(*), 誰ともつかぬ顔になる。肩で息をしながら、光の失われた目でデガーモを見上げた。

▼デガーモとミュリエル

「思いだしたか、ミュリエル？ さあ、帰るぞ」

「——嫌よ。帰らない。私は、貴方の人形じゃない」

「いや、お前は私の人形だよ。あの娘の記憶を埋め込む事で妙な自我が生まれてしまったのは想定外だったが、そもそもお前の人格は、私がお前を暗殺者に仕立てる為に植え込んだものだ。

今のお前が自分の感情だと思っているものも、私に作られたものだ。お前は、私無しには何者にもなれやしない。現に、お前は自分の“元々の顔”を思い出せるか？」

「……………！！」

「だから、帰ってこい、ミュリエル。私が、お前を何者にでもしてやる」

◆結果

デガーモがライトハンド《腹心》を使用。長い沈黙の後、ミュリエルはデガーモが差し出した手を取る。彼女の心は、再びデガーモによって囚われてしまう。

●フェイト：半身

条件：「夢の終わり」の後、任意のタイミングで

登場：〈コネ：ミュリエル〉ほか 10

◆解説

ルミナ（≡ミュリエル）に《トゥルース真実》を打ち、【ムネモシュネ】

の情報を入手するシーン。この情報を得る事で、現在のルミナの真実を知る事が出来る。《トゥルース真実》を使用したタイミングで、まず【ムネモシュネ】に関する情報を渡し、その後にミュリエルのセリフを続けるといい。

◆描写 1

喫茶店の扉を開くと、そこにルミナが立ちつくしている。窓に手を当て、雨の降る暗い空を見上げていた。

▼セリフ：ルミナ（≡ミュリエル）

「重い空……まるで、湖の底から水面を見上げてるみたい」

「“探偵”さん(*)……貴方に、お別れを告げなければいけない」
(※《トゥルース真実》を使用した)

「(顔がドロリと溶け、能面になる) もう、貴方ならば気付いているのでしょうか？ 私は、本物のルミナじゃない。本物は、父親に売られて、実験の被検体にされて死んだ。可哀想な子。今頃、湖の底」

「私は、ルミナの人格を埋め込まれていたシミュラクラム偽物。もう、ルミナ・フロスはどこにも居ない」

「だから、ルミナからの依頼は、もう終わり」

(『カブト』に)『カブト』……私の殺しを唯一止めた貴方なら、私を護ってくれるんじゃないかって思った。でも、そもそも私に、逃げ場なんて無かった。だから、依頼は取り消すわ。ごめんなさい」

◆描写 2

(※《トゥルース真実》の対象を再確認する。ルミナに対してだと明言した場合、以下の演出を追加)

一瞬、ミュリエルの顔の半分がグニャリと歪み、ルミナの顔になる。その顔は涙を流しながら、かすれる様な声で呟いた。

「『フェイト』さん、怖いよ、助けて……」

◆結果

ミュリエルは《インセンサブル不可知》を使用して退場する。彼女の体がドロリと溶け、そのまま消える。彼女を追ってムネモシュネ実験施設に向かうとクライマックスだ。

何かのスイッチ

ムネモシュネを遠隔で切った。このため、ミュリエルに上書きされていたルミナの意識が消え、ミュリエルの記憶と意識が戻ったのだ。

顔がドロリと溶け

流体素材で顔を変形させるサイバーウェア「サウザンド・フェイス(『OTE』94p)」の効果だ。

「“探偵”さん」

ルミナは『フェイト』の事を名前で呼ぶ。ここで話しているのはルミナではない、という暗示だ。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●顔なし女のこもりうた

◆解説

デガーマ達と対決するシーン。戦闘前の描写で、「ムネモシュネの人格データの上に新たな人格が形成されている」という事をプレイヤーに伝える事。これは、『フェイト』がルミナと触れ合う中で出来あがった、生きた記憶と人格である。

◆描写1

倉庫街の一角に偽装された施設の中。デガーマが回収したムネモシュネのデータを、大型トロンが解析している。コンソールを見つめる青年が、恍惚な表情で奇声を発した。

▼セリフ：ローゼンタール

「スゲーッ！　なんだこれ、なんだこれー！！」
「なあデガーマ、見てくれよ、これ凄いよ。ムネモシュネの上で、新しい人格が発生してる！」

「確かに人間の脳は、情報の欠損を他から補おうとする習性があるけれど、まさか、欠損した人格データが、生身の経験を得る事でその欠損を補って、独自の成長を遂げるなんて」
「これ、使えるよ！　下手すりゃ、コピーなんか目じゃない凄いキラ人格が作りだせるかも！」

▼セリフ：デガーマ・ベインティ

「……それは結構だが、次は実用段階に入ってから持ってきて欲しいものだ。ムネモシュネが未完成品だったせいで、俺は無駄な金と労力を使うハメになったのだからな」
「さて。どうも不作法な鼠が忍び込んだらしい」

◆描写2

施設に足を踏み入れた君達の前に、ミュリエルが立ちはだかる。その姿はもはや誰とも判別のつかぬ顔をしていた。

▼セリフ：ミュリエル

「どうして、来たの……？」
「諦めて。元々、ルミナなんて人間は存在しなかったのよ。そして、私も、そう」
「私は“フェイスレス”。顔を……自分を持たない、殺人鬼」

▼セリフ：デガーマ・ベインティ

「やれやれ、お前達はカーライルを敵に回すということの意味が分かっていないようだな」
「我々はN◎VAを支配する。例え今ここから逃げのびたとしても、その先に安住の地は無いぞ」
「今ならまだ間に合うぞ？　今まで見てきた事を忘れ、我ら^{アーサー}の王に忠誠を誓うのであれば、その身の安全は保障してやる。その為の道具^{サイコ・アプリ}も提供しよう」

「ふん、恐れ知らずの小僧どもが。いいだろう。貴様らが敵に回した怪物の正体を見せてやろう。やれ、ミュリエル」

▼セリフ：ローゼンタール

（『フェイト』に向かって）「おやぁ？　もしかしてキミが『フェイト』ってひと？　そっかー。うちのルミナがお世話になったみたいだね。彼女の“新たな”人格形成において、君に関する記憶が重要な^{ファクター}因子になったみたいだからね」
「キミには感謝してもし足りないよ！　君のお陰で、より素敵な人間兵器が作れそうだ！！」

◆カット進行

敵は以下の通り。キャストの人数が4人の場合、トループを2体追加する。

- ・ミュリエル　　：AR3
- ・デガーマ　　：AR2
- ・ローゼンタール　：AR2

敵は全員で1エンゲージ。キャストからは近距離の位置にいる。（トループがいる場合は、ゲストのエンゲージから離して配置すること）

戦闘終了条件は敵の全滅、あるいはミュリエルの洗脳(*)が解けた状態で他の敵を全滅させることである。

戦闘終了時、ローゼンタールは他者にムネモシュネを渡すまいと、《完全偽装》^{アンダカヴァ}でそのデータを消去しようとする。これを打ち消さない限り、ルミナの人格をサルベージする事はできない。(*)

ミュリエルの洗脳

ミュリエルの洗脳には、データの根拠がある。ミュリエルには、クリサリス（『WOR』51p）というサイコアプリが装着されている。これは《腹心》に指定されたキャラクターにのみ効果を発揮する人格偽装アプリケーションだ。

更に、それにリトルスリーパーという洗脳アプリ（サイコアプリに装着する）が付けられており、その効果により、デガーマには逆らえなくなっている。つまり、ミュリエルの洗脳を解く方法は2つ。ひとつは《腹心》を打ち消す事。もうひとつはそれらの装備のいずれかを破壊することだ。この事は事前にRLから伝えておくと良い。

《完全偽装》でデータを消去

これを打ち消せる適切な神業が無い場合、キャストの推奨スタイルの神業であれば打ち消せる、としてもよい。

《真実》であれば、隠した先を見つけ出せるだろう。《難攻不落》でルミナというキャラクターを護るとすれば、データは守られる。《不可触》は、《完全偽装》より先にそのデータを隠すとすれば相打ちにできるし、《制裁》なら証拠物件の差し押さえ、という演出で通してよいだろう。

他にも、プレイヤーの案で面白いものは積極的に認めるといい。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

各キャストとこれまでの物語に相応しいエンディングを演出すること。ここでは一例を示す。

●フェイト：さようなら、長い眠り

ルミナ・フロス（ムネモシユネ上的人格データ）が救われたかどうかで、大きく演出が変わるだろう。キャスト達がルミナの処遇をどのようにしたのかを反映させて、シーンを描写して欲しい。

以下に示すのは、ルミナのデータをサルベージし、義体などのボディに入れる形で救った場合の演出の一例だ。

◆描写

——そこは、まるで湖の底でした。

冷たい冷たい電腦の水底に、私の意識は沈んでいました。楽しい記憶、暖かな記憶。でも、それらは儚い夢で。この冷たい水底での孤独が、私の現実の全てでした。

もう、わたしはずっと、ここから出ることはないのでしょう。……そう、思っていました。

でもその時、懐かしい声が聞こえて……わたしが水面を見上げると、そこには……。

▼セリフ：ルミナ

（目覚める）「——『フェイト』……さん」

「私を、あの冷たい湖の底から呼び起こしてくれた声は……夢じゃなかったんですね」

「怖かったんです。あの暖かかった日々も、『フェイト』さんとの日常も、全部夢だった気がして……」

「でも、貴方の暖かな手が、私を引き上げてくれた」

「『フェイト』さん、ありがとう……私、帰ってこれて、本当に良かった……」

◆結末

数日後、『フェイト』がいつもの喫茶店を訪れると、いつもの様に、ルミナが風の様な笑みで迎えてくれる。彼女が出すコーヒーを映して、シーンを閉じる。

●イヌ：死者に送る花束

アリー塚原と共に、今回の事件について振り返る。

▼セリフ：アリー塚原

「お疲れさま。無事、終わったみたいね」

「今回の事件……言っちゃなんだけど、この街じゃありふれた事件よ。彼女のような被害者は、2秒に1度は生まれている」(*)

「私たち警察はいつだって後手後手だわ……それでも私たちは、小さな犯罪の芽を一つずつ、潰して行くしかないのね」
「貴方の働きで、死んだルミナ・フロスの魂も、少しは報われたかしら」

◆結末

『イヌ』のセリフでシーンを閉じること。

●レッガー：血の収穫

音羽南海子に呼び出され、今回の事件でカーライルに打撃を与えた事を評価される。

▼セリフ：音羽南海子

「『レッガー』、カーライルの奴らに大打撃を与えたそうじゃないか。よくやったよ」

「N◎V Aのストリートは今も昔も、そしてこれからも、わたしら河渡連合が支配する。分を弁えないガイジンどもには、熱い灸をすえなきゃならない」

「これから、第三次アサクサ戦争はより激化するだろう。『レッガー』、アンタの力が必要になる。協力してくれるね？」

◆結末

『レッガー』の返答でシーンを閉じること。

2秒に1度は……

犯罪組織が跋扈するN◎V Aのストリートでは、絡み取られる犠牲者も数多い。レッドエリアはもっと悲惨だ。

●カブト：短いお別れ

ミュリエルの生死や、ルミナの処遇がどうなったのかで、『カブト』のエンディングの演出も大きく変わってくるだろう。

ここでは、ミュリエルとルミナが分離し、尚且つミュリエルがデガーモからの支配から解放された際のエンディングの一例(*)を示す。

◆描写

房総南国際空港。君は、飛行機に乗り込むミュリエルを見送っている。

▼セリフ：ミュリエル

「ここまでの護衛、ありがとう」
「私はまだ“顔なし女”のまま。相変わらず、自分という自我を思い出せない」
「でも、自分を取り返したいと思ったその気持ちは、それだけは、紛れもない私の気持ちだから」
「世界中を旅して、いつか自分自身を見つけ出す事ができたら、またこの街に戻ってくる」
「その時は改めて、自分の本心からの感謝を、貴方に伝えようと思うわ」
「だから、今はさようなら」

◆結果

飛行機に乗り込むミュリエルに、『カブト』が何か声をかけたら、シーンを閉じること。

「●カブト：短いお別れ」

この例では、ミュリエルは“自分探しの旅”に出ることになっているが、もちろんN◎V Aに留まるエンディングでも構わない。
キャストがミュリエルに対して、新しい生き方を提示できた、あるいは本来の自分を思い出させる事が出来たのであれば、彼女はまた違った選択をするだろう。